



教育目標 つよく かしく あたたく

ひがしそのき

東曾野木小学校

学校だより

令和7年5月30日

第2号

子どもたちの本気と勝敗を超えて見えてくるもの

校長 金 洋輔

今年の運動会は、2度にわたる雨天延期実施となり、日程の変更や準備の面で、保護者の皆様や地域の皆様にご心配とご負担をおかけしました。また、今年度からはボランティアの方々にもご協力をお願いするかたちでの開催となりましたが、快くお力を貸してくださった皆様に、心より感謝申し上げます。皆様の支えがあってこそ、子どもたちにとって思い出に残る一日を無事に終えることができました。

運動会の一週間前、私は全校の子どもたちにこう伝えました。「徒競走でも、興味走でも、リレーでも、応援でもかまいません。たった一つでいいから、自分で決めたことに本気で取り組んでください。」全力で挑戦するからこそ味わえる達成感や成長があると信じての言葉でした。

迎えた当日は、どの種目も子どもたちの熱意に満ちあふれ、応援にも一層力が入りました。最後の競技まで勝敗の行方がわからない接戦が続き、真剣な表情で競技に取り組む姿や、声を枯らして仲間を応援する様子に、会場全体がひとつになっていくのを感じました。

競技の部では白組が見事な団結力で優勝を勝ち取り、応援の部では赤組が迫力ある応援で優勝となりました。それぞれの組が、練習の成果を精一杯出し切った結果となりました。

運動会では勝ち負けがはっきりします。本気で取り組んだからこそ、悔しい思いをした子どももいました。しかし、そうした中で見えたものに、大きな成長を感じました。

たとえば、上学年のリレーです。全員が必死につないだバトンは、最後に6年生のアンカーに託されます。アンカーの子どもたちは、大きなプレッシャーの中で、たとえ前を走る走者との距離が離れていても、仲間の思いが詰まったバトンをしっかり握り、決して最後まであきらめることはありませんでした。4人のアンカー全員がゴールを駆け抜けたあと、ある光景が目に残りました。

悔しさから涙をこぼす子に、他の組のアンカー走者たちが自然に駆け寄り、そっと声をかけていたのです。本来なら走り終えてホッとしたい場面だったと思います。それでも、組が違っても、共に本気で走った仲間として、お互いの健闘をたたえ合う姿に、勝ち負けを超えた友情や思いやりが、子どもたちの中にしっかり育っていることを実感しました。胸が熱くなる、忘れられない瞬間でした。



また、運動会後の児童代表挨拶や振り返り作文の中には、地域の方に向けて「運動会を見守り手伝ってくださいありがとうございます」「平日なのにに来てくれてありがとうございます」といった言葉が綴られていました。子どもたちの中に、支えてくださっている方への感謝の気持ちが育っていることも、大きな成果だと感じています。

これからも、保護者の皆様や地域の皆様とともに、子どもたちの内面も含め、その成長を見守り支える学校でありたいと願っています。皆様のご理解とご協力に、改めて心より感謝申し上げます。

運動会当日 子どもたちの輝く姿



1年生

入学して約1か月半での運動会。しっかり練習して、カッコいい姿を見せました。代表の挨拶では元気な声がグラウンドに響き渡りました。



4年生

上学年の仲間入りをした4年生。今年の運動会は応援団や得点係などの係の仕事もしながら競技をしました。元気よく、意欲的に取り組んだ運動会でした。



2年生

1つ先輩になり、練習の時からお手本となりがんばっていました。下学年興味走では、校長先生や応援団の子どもたちとかかわりながら白熱したレースをしました。



5年生

上学年借り人競争では大きな声を出してレースをしました。5年生のよさが光った競技でした。保護者の皆様もご参加、誠にありがとうございました。



3年生

下学年リレーのラストを務めた3年生。昨年よりも走る距離は2倍の100mになりました。力強い走りで、下学年をひっぱりました。



6年生

今年が小学校生活最後の運動会となりました。競技でも応援でも立派に全校をリードしました。大切な思い出の1ページになったことと思います。